

神戈陵を渡る風2

令和4年度 川辺高校 校長通信 第088号(通算)

令和5年2月3日(金)発行

二月になり、今日は節分。つまり立春の前日ということになります。節分は、季節の分かれ目の意味で、元々は「立春」「立夏」「立秋」「立冬」のそれぞれの前日をさしてしました。特に、節分が立春の前日をさすようになった由来は、冬から春になる時期を一年の境とし、現在の大晦日と同じように考えられていたためだそうです。



歴史探訪(島津忠良公)



←
これは、川辺の飯倉神社の祈禱所に掲げられている木製の額の写真

この飯倉大明神は、島津忠良公が書いた文字だと言われています。(450年以上前のことです)

ところで、皆さんは島津忠良(ただし)って知っていますか？ 尊称を日新斎(しんさい)といい、島津義弘公(鬼島津として知られている戦国時代最強の武人)の祖父としても知られています。また、加世田の竹田神社は、この島津忠良公をご祭神として祀ってあります。薩摩藩の「郷中(ごちゆう)教育」の基本精神となったといわれる「日新公(しんこう)いろは歌」を、5年余の歳月をかけて完成させた人でもあります。



竹田神社の近くに、日新公のお墓があります。

忠良公は、島津氏の分家・伊作島津家の出身ですが、島津家の宗家(薩摩国の守護を受け継ぐ本家)において当主が若年で相次いで病死したため混乱していたころ、人道を守り領民には善政を施したことで、領内外にその誉れが高かった忠良にこの宗家を引き継いでもらうこととなりましたが、反対勢力も存り混乱しました。加世田や川辺、谷山は激戦の地となり、

激しい抗争の末、忠良・貴久父子はついに薩摩半島を平定し、息子の貴久が守護の座につくことになりました。忠良は1550年に加世田に隠居しながらも、琉球を通じた対明貿易や、鉄砲の大量購入、家臣団の育成に励んだと言われます。また「麓(ふもと)」と呼ばれる城下町を整備、養蚕などの産業を興し、多くの仁政を行って、その後の島津氏隆盛の基礎を作り出したため、この父子を「島津家中興の祖」と呼ばれています。



←
島津貴久の灰塚(竹田神社の近く)

島津貴久は、日新公の長男であり、15代島津家の太守(当主)となったが、在位の40年間、戦陣に明け暮れた戦国の武将でした。三州統一もようやく終わった1572年に加世田のお屋形で亡くなりました。父日新公のときと同じこの地で火葬して鹿児島島の福昌寺墓地に葬られましたが、16代当主義久がこの地に釈迦院(寺)と灰塚を建て、亡き父を偲んだそうです。

(南さつま市教育委員会の説明文より)



←
竹田神社の横には、日新公いろは歌の歌碑が並んでいる「いにしへの道」が整備してあります。

ここを散策すると気持ち良さそうです。



日新公の生誕の地 亀丸城跡(吹上・伊作)

学年朝礼

令和5年1月16日(月)

1 学年



永長先生の講話

昨年逝去された鹿児島出身で日本を代表する経営者だった稲森和夫さん(京セラ, KD DI設立, JAL再建)の『人生の方程式』を紹介します。

「人生・仕事の結果=考え方×熱意×能力」

能力(才能や知能)も大事ですが、ここでは、熱意(=事をなそうとする情熱や努力する心)の大切さを実感します。さらに注目したいのは、最初にある考え方(=心のあり方, 生きる姿勢)です。ベクトルを決定するこの「考え方」こそ稲森さんも最も重要なファクターだと言われています。プラス思考で直向きに努力することが進路目標実現への道なのです。

進路選択では、いろいろ考えることが多いですが、まず目標を立て、そして、視点や発想を変えること。ポジティブな思考が大切です。

2 学年



榑木来望・塗木愛佳・江平芙美佳・平未来さんの4人による発表

全校朝礼

令和5年1月30日(月)

3学年がそろった今年度最後の全校朝礼でした。そこでの校長講話の要旨をお伝えします。

集中力を高める10のこと

- ①身の回りの整理整頓
- ②適度な休憩
- ③睡眠時間の確保
- ④ご飯は腹8分目
- ⑤適度に運動
- ⑥姿勢をよくする
- ⑦目の疲れをとる
- ⑧時間を意識する
- ⑨記憶せずメモをとる
- ⑩仕事(勉強)を楽しむ



資料元:リモにゃん/副業・フリーランスのお仕事術さんのツイートより引用